

ごあいさつ

小松市では現在、「ひと・まち・みどりが輝くこまつ」の実現を目指して、様々な施策を展開しているところでありますが、都市計画行政につきましても「景観を考慮したまちづくり」が最も重要な課題となっております。また、市内では、住民主体のまちづくりが活発に議論され、誠に喜ばしく感じております。特に材木町、大川町では、かつての「町家の町並み」、「北国街道の北の玄関口」、そして今江町では、木場潟から旧今江潟をつないだ「水郷」といった観点から、先人の残した町並みや歴史を大切に、後世に伝えていこうという機運が高まり、学習会やイベントの開催、まちづくり協定書の締結など、まさに住民ぐるみでまちづくりに取り組まれております。

市と致しましてもこれらの地域を、『美しいこまつの景観を守り育てるまちづくり条例』に基づく「景観まちづくり重点地区」や「景観まちづくり推進地域」に認定し、支援体制の強化を図って参りたいと考えております。これからもこのようなまちづくりの気運が高まることを期待し、景観を十分に意識したまちづくりに努めていかなければならないと改めて実感しております。

さて都市景観の向上と市民のまちづくりに対する意識の高揚を目的に「こまつまちなみ景観賞」を創設して、はや第7回目を迎えました。今年の受賞作品には4点の民間建築物が選ばれ、大変すばらしいことであると思っております。同時に、本顕彰制度の目指すところが十分に浸透してきているのではないかと喜んでおります。すぐれた都市空間づくり、すばらしい景観まちづくりに対しまして、市民の皆様、加えて建築物・工作物の設計、施工に携っておられるすべての方々に今後とも美しい小松の景観づくりへのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

こまつまちなみ景観賞
実行委員会会長
小松市長 西村 徹



趣旨

「こまつまちなみ景観賞」はまちづくりの取組みとして、さらに都市景観の向上と市民のまちづくりに対する意識の高揚を図ることを目的として、小松の自然、風土に調和し優れた都市景観づくりに貢献している建築物などを選び、それに携わった人たちを顕彰するものです。

賞

実行委員会では、こまつの優れたまちなみ景観に対して、広く市民に周知するため、受賞された施主の方々に、九谷窯元工業協同組合製の「九谷焼の銘板」を贈呈しています。

表彰銘板



◎ こまつまちなかサイン

細工町交差点

施主 石川県知事 谷本 正憲
設計 小松市・ナグモデザイン事務所
施工 株式会社 大宣看板

シンプルかつ個性的なデザインで体系立った街のサイン計画が試みられており、こまつのまちなかでの歴史を下地とした景観まちづくりの取り組みともよく整合している。



◎ 廣瀬邸

東町

施主 廣瀬 久子
設計 建築研究室セクションアール北陸アトリエ
施工 有限会社 村建築

伝統的な造りの町家が並ぶ界隈において、曳き家工法によって町家の原型を留めるよう図ると同時に、軒高を揃えた門構えを設けるなど、町並みの連続感と一体感の保持に努めた改築を行っている。



◎ 安宅住吉神社斎館

安宅町

施主 安宅住吉神社宮司 北村正彦
設計 株式会社 白井大工一級建築士事務所
施工 株式会社 白井大工

既存樹木や地形の特徴を尊重しつつ施設を配置するとともに、既存の建物との調和に十分配慮したデザインを施すなど、神社境内の原風景の維持に努めた増築計画を施している。



◎ 浅井邸

南浅井町

施主 浅井 康邦
設計 エムエヌ木材 株式会社
施工 エムエヌ木材 株式会社

暖か味のある色使いと、開放的でコンパクトな玄関廻りの造りによって、住宅地に相應しい親しみ感のあるまちなみ景観を創出している。



◎ 鵜川邸

白江町

施主 鵜川 和久
設計 建築研究室セクションアール北陸アトリエ
施工 株式会社 山下工務店

広々と開けた田園景観にマッチした水平感のあるシルエットを形づくるとともに、ゆったりしたアプローチ部分を設け、ゆとりある街区景観の形成に寄与している。

審査講評

小松におけるまちなみ景観整備の取り組みも年数を重ね、景観関連のまちづくり協議会の設立など、諸処で、様々な形での具体的な成果が目に見えてきたことを強く感じています。

今回で7回目を迎えた「こまつまちなみ景観賞」には、74点の応募がありました。一次の書類審査で15点を選び、引き続き現地調査を行い、市内4カ所で行われた市民投票結果（総数768票）を参考にしつつ、最終的に5点を入賞作品として選出いたしました。

今年度は規模の大きな際立ったプロジェクトはありませんでしたが、「廣瀬邸の改築」や「安宅住吉神社斎館の増築」などに見られるように、既存の景観文脈の維持継承に細やかな配慮を施したものが出現してきたことも特徴的な点でした。こうした市民一人ひとりのきめ細かな心掛けと心構えこそが、良好で個性豊かなまちなみ景観形成に不可欠なことといえます。

今後、市民の強い参画意識とともに、歴史的風情と現代的な魅力が同居した小松の真のまちなみ景観が創出されていくことに期待をいたします。

こまつまちなみ景観賞
選考委員長
森 俊偉

